

MEMO	
株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 https://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむを得ない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
単元株式数	100株

ご注意

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シツキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807
<https://www.shizuki.co.jp>



株主通信

第97期 報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

メッセージ

不断の改善を、
可能とする組織。



シツキ

証券コード 6994 / スタンダード市場

株式会社 指月電機製作所

メッセージ

代表執行役社長
足達 信章2019-2028年度
長期経営ビジョン

10年後の指月グループのあるべき姿

挑戦する社風へと変革し、品質第一のモノづくりと、
未来を見据えた新技術・新商品の開発、
グローバルな事業展開の推進により、
社員の夢を実現し社会に貢献する
企業グループになる

不断の改善を、 可能とする組織。

4期連続で最高売上高を更新。 「知の融合」によって生まれる、 生産性改善への知恵。

私たち指月電機グループは、長期経営ビジョンの実現に向けて3つのステージから成る中期経営計画を策定し、一歩ずつ挑戦を重ねてまいりました。

第Ⅱ期の最終年度にあたる2024年度の連結売上高は27,346百万円(前年度比4.0%増)となり、4期連続で過去最高を更新する運びとなりました。さらに、営業利益におき

中期経営計画

第Ⅰ期 2019～2021年度

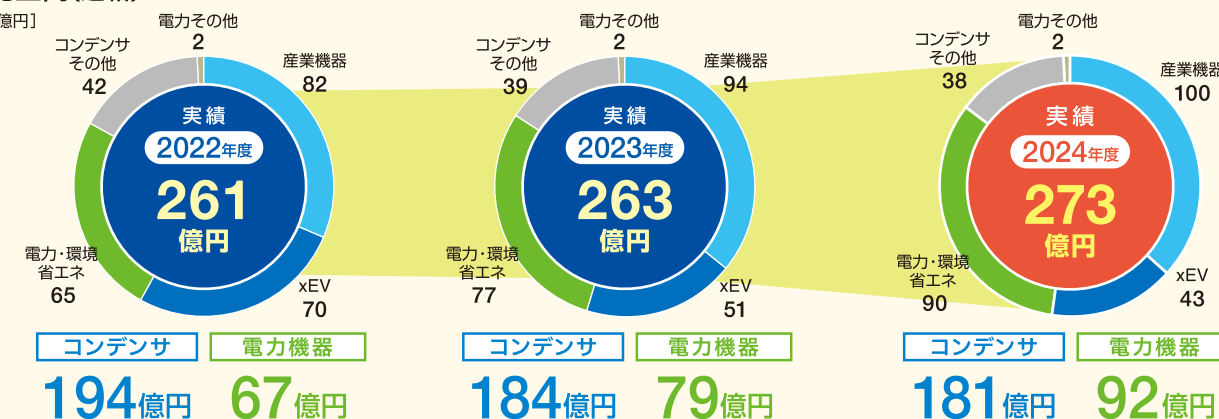
第Ⅱ期 2022～2024年度

第Ⅲ期 2025～2028年度

第Ⅱ期には、パワーエレクトロニクスの普及に貢献するため、事業拡大を強力に推進します。
また、エネルギーマネジメントのニーズの高まりを見据え、製品の機能拡張や市場開拓に挑みます。

売上高(連結)

[億円]



ましては前年度比81.2%増となる1,990百万円を計上しました。

営業利益の伸張につながった要因のひとつとして、材料価格やユーティリティコスト、労務費などの上昇を踏まえ、お客さまのご理解と協力を得ながら、価格の適正化を進めてきたことが挙げられます。そして、最も重要なポイントとして、シヅキの経営方針である「JIS(シムス)」の精神に則って、一人ひとりが知恵を出し合いながら「生産性の改善」に努めてきたことが、売上高と営業利益を押し上げる大きな力となってくれたものと考えます。例えば、産業用コンデンサの主力製品においては前年度比でおよそ150%の生産性向上、データセンターの新設などで市場が活況を呈し

ている電力受配電機器においても約130%の向上が見られました。

「JIS(シムス)」とは、目標に対して常に現状を把握し、未達の原因を分析し、不断の改善を可能にする組織の在り方です。グループが一丸となって「知の融合」に取り組むことで、一拠点や一職種の中だけでは生まれ得なかった新たな知恵が次々と生まれ、その成果に触発されるように、また新たな挑戦と改善が生まれていく。そのようにして積み上げてきた活動の成果が、今さまざまな場面で奏功し始めていることへの手応えを感じるとともに、私たちは決して挑戦の姿勢を緩めることなく、新たに策定した第Ⅲ期中期経営計画のもとで、さらなる前進を目指そうとしています。

変革によって、変化に強くなる。

組織の融合度を高め、新たな価値を創出。

「挑戦する社風への変革」という言葉を冠した長期経営ビジョン。その実現に向けて取り組んできた第Ⅰ期・第Ⅱ期は、私たちシヅキにとってまさに挑戦と変革の道のりでした。

運営体制の面では、第Ⅰ期に開発・製造・販売という職域の垣根を越えた「組織横断型」の活動を展開。第Ⅱ期は、「事業部制」へと移行してその融合をさらに進め、各事業部が一丸となってお客さまと向き合うことで顧客志向がより強まるなど、一定の成果が見られました。

しかし、急速に市場のニーズや経済環境が変化する中、一事業部だけでその変化に対応することは今後一層難しくなっていくと予見されます。そこで次のステップとして「事業部間連携」をテーマに掲げ、すでに第Ⅱ期の後半から、事業部同士の力を掛け合わせた共創的なプロジェクトが動き出しています。

例えば、次世代の産業用機器をつくるというプロジェクトでは、市場の動向を見据え、これまでのフレームに囚われずに新しい製品の創造に取り組むことで、既存の事業において

も課題や改善点に気づく目が養われ、従来製品のブラッシュアップにつながるという副次的な効果も生まれています。

個々の能力と、挑戦心を引き出せる環境を。

人材育成・能力強化の面では、東京都立大学の元副学長であり名誉教授である清水敏久氏を技術顧問として招聘。清水氏はパワーエレクトロニクスの分野において非常に著名な方で、技術者の育成に多大な尽力をいただいています。人事処遇の在り方についても制度を刷新し、「挑戦」を制度の面からもきちんと評価できる仕組みを整えることで、一人ひとりの新しいチャレンジをより積極的に後押しできる環境を育もうとしています。

さらに、階層別の研修制度を設けて定着させることで、一人ひとりが継続的に学びと成長を重ねていける土台を築き、それぞれの研修の成果を踏まえながら、人材育成の在り方についても常に最適化を図っていく所存です。

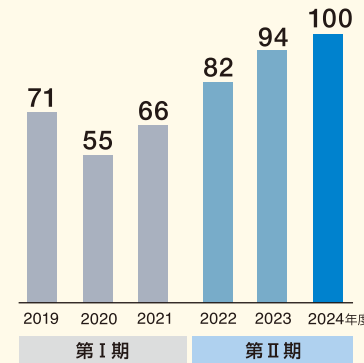
このようにして、全社的な「知の融合」と個々の「能力強化」を併行して進めることで、新しい知恵と挑戦が次々と湧

〈重点事業の売上高実績（連結）〉

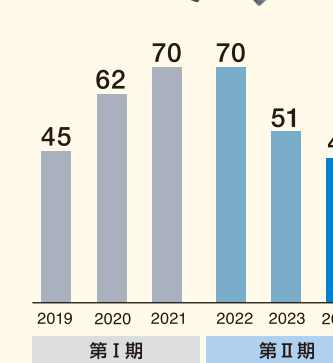
[億円]

コンデンサ・モジュール

産業機器

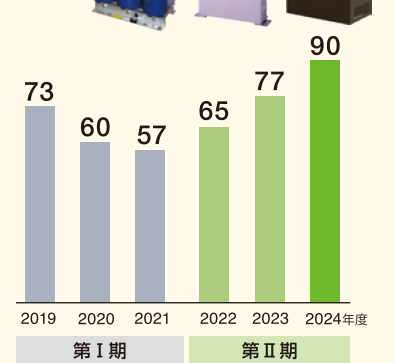


xEV



電力機器システム

電力・環境省エネ



き起こるような組織へと変革を遂げ、どのような外部環境の変化にも適応し、進化を続けていける組織を創り上げていきたいと考えています。

ROE改善への一歩となる、資源の再配分。

そしてもうひとつ、私たちが喫緊に取り組むべき課題として、ROE（自己資本利益率）の改善があります。この取り組みについては、次頁の中期経営計画第Ⅲ期でもご紹介しますが、昨年度からその助走期間として、市場の動向を踏まえた「資源の再配分」に取り組んでまいりました。

私たちシヅキが長年世に送り出してきた製品には、世の中の変化に対して最適化できていない部分も少なからずあります。その現状についてマーケティングの基本である4P、Product（製品）、Price（価格）、Place（流通）、Promotion

（販売促進）などの観点から改めて分析し、事業ポートフォリオの検討と製品ラインナップの最適化を進めています。

併せて、設備投資の最適化・コストダウンに向けて「資源の有効活用」という観点からも取り組みを始めています。例えば、xEVの需要が予測を下回ることで余剰となっている生産能力を、市場が活況となっている産業機器の生産強化に振り向けるなど、事業部を越えた柔軟な調整を図っています。こうした取り組みの成果が既に表れ始めており、低迷していたROEは2024年度に5.2%まで改善。目標の8%に向けて、さらなる資本効率の向上に取り組んでいく所存です。

私たちシヅキはこれからも長期経営ビジョンの実現に向け、グループ一丸となって挑戦を重ねていきます。株主の皆さまにおかれましても、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

シヅキが取り組んできた「知の融合」

第Ⅰ期

『組織の横断』

開製販の連携を強化し、
知恵を出し合う

第Ⅱ期

『事業部制』

事業部が一体となって
お客さまと向き合う

第Ⅱ・Ⅲ期

『事業部間の連携』

視野を広げて市場を見つめ、
新しい価値を生み出す

2025年度－2028年度

中期経営計画 第Ⅲ期 始動

指月電機グループは、人間性の尊重、環境への配慮、お客様への満足のご提供を「社是」としてきました。

そして2019年、この社是を実現するために社員たちが自ら話し合いを重ね、10年後の当社グループのあるべき姿を「長期経営ビジョン」として策定しました。これまで、長期経営ビジョンの達成を目指し取り組んできた中期経営計画は、2025年度から最終ステージとなる第Ⅲ期に入ります。第Ⅲ期では、第Ⅰ期から取り組んできた「知の融合」の活動をさらに拡大させて、収益性を含む企業価値向上に向けた取り組みを進めてまいります。

社是

我々は人間性を尊重し、環境を大切にする無駄の無い物づくりにより、お客様に満足を提供し、社業の発展を通して社会に貢献します

長期経営
ビジョン

挑戦する社風へと変革し、品質第一のものづくりと、未来を見据えた新技術・新商品の開発、グローバルな事業展開の推進により、社員の夢を実現し社会に貢献する企業グループとなる

中期
経営計画

第Ⅰ期 2019～2021年度

100年企業を目指した
経営基盤の確立

第Ⅱ期 2022～2024年度

事業成長に向けた
攻めの経営

第Ⅲ期 2025～2028年度

企業価値向上に向け
融合からシナジーへ

中期経営計画 第Ⅲ期のテーマ

企業価値向上に向け **融合からシナジーへ**

～ 知の融合の拡大展開で、社会に必要とされる企業を目指す～

MISSION 電気エネルギーの有効利用を支え、社会の持続的成長に貢献する

VISION 電気エネルギーの有効活用において無くてはならない存在となる

- 顧客のニーズを超える製品競争力(技術・品質・コスト)を獲得
- 電気エネルギーマネジメント(省エネ、電力品質など)における多様なニーズに応えるソリューション企業となる

第Ⅲ期全体の取り組み方針

知の融合を拡大展開し、全社一体となった組織間連携、能力向上活動により、人的・物的資源の有効活用を促進し、競争力向上と企業価値向上を推進する

【事業ポートフォリオ戦略】

第Ⅲ期では、現在の事業環境を踏まえた上で、当社グループの目指すべきポジションを明確にし、その達成に向けて最適な資源配分と、既存資産や資源の有効活用に取り組むことが重要なポイントになると考えます。



コンデンサ・モジュール

コンデンサ軸での統合運営

コンデンサ・モジュールでは、持続的な成長が見込める市場への注力と、それによる収益への貢献度を勘案し、事業環境の変化に沿った技術の高度化を継続的に進めるとともに、製品開発に留まらず、品質向上・生産性改善も含め、モノづくり全般における対応力を強化してまいります。

xEV事業

既存投資で対応可能な
案件に注力

産業機器事業

xEV技術(開発、製造)を転用し、
製品競争力・生産能力を向上

事業を統合し、トータルでの事業効率を最大化する



電力機器システム

トータルソリューションの創造

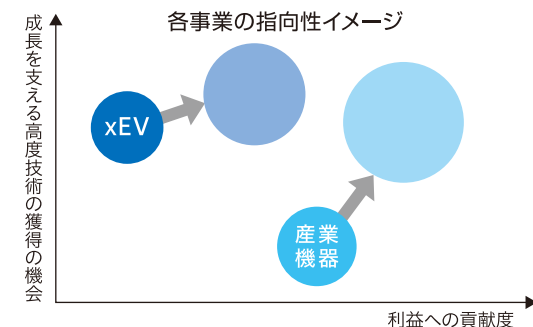
外部環境として、脱炭素社会に向けたエネルギーミックスの変化や電力ネットワークの次世代化、次世代パワー半導体の適用が加速しています。第Ⅲ期において電力機器システムでは、コンデンサとの機能統合を図り、エネルギーマネジメントにおける革新的なソリューションビジネスを確立し、次期中期経営計画での事業化を目指し取り組んでまいります。

コンデンサ(デバイス)のコア技術と、
パワエレ機器(システム)の設計ノウハウを融合させ、
外部環境の変化に対応する
革新的なソリューションビジネスを確立する

コンデンサ

パワエレ
機器

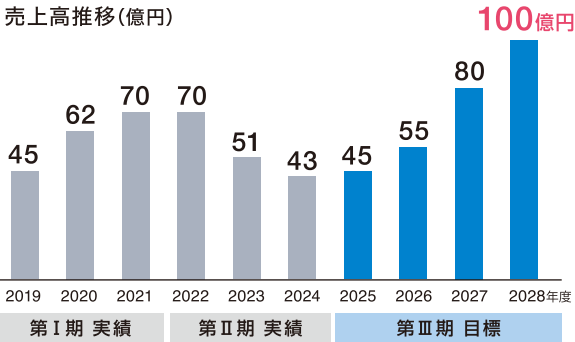
デバイスとシステム
の融合による革新的な
ソリューション



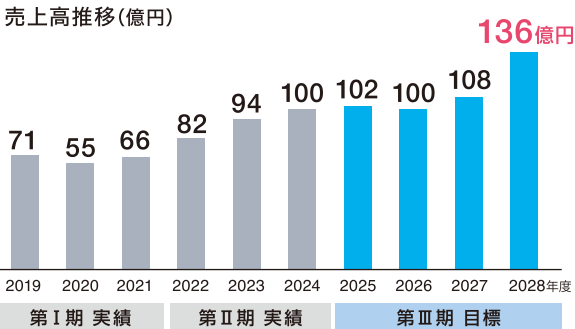
【重点事業の固有戦略】



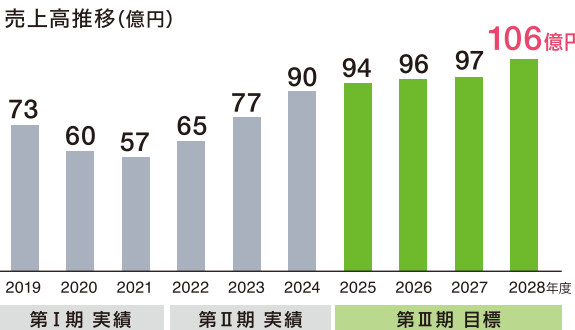
需要変動への対応力を高めてまいります。生産面では、確保済み案件への対応に絞り、複数工場間での並行生産の導入、設備の共用・転用などでのフレキシビリティの向上、要員の他事業への展開などを実施し、固定費圧縮を進めます。また、原価低減を推進し、需要変動リスクを見込んだ投資の最適化を図ってまいります。



産業機器市場は、電力需要の増大、脱炭素化の流れにより、拡大基調となります。既存主力製品の生産能力を拡大し、需要増加のタイミングを見極めて大幅な生産増強に取り組んでまいります。また、xEV事業で得た知見を生かし、加工条件の最適化と加工精度の向上により、市場競争力のある製品開発を推進します。



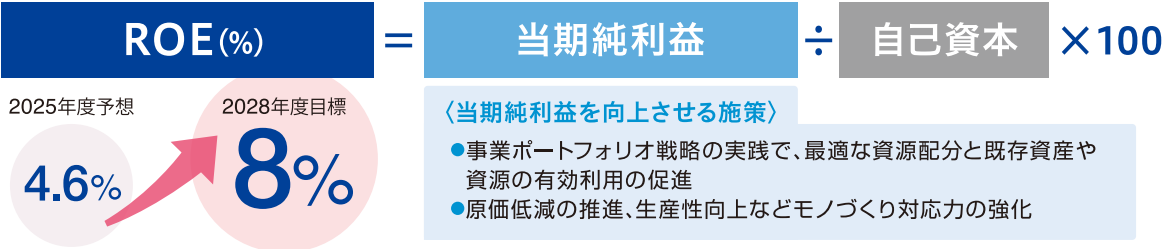
進相器市場において、系統での電力品質の改善が進むことにより、市場規模としては横ばいになると見込まれる中、販売ネットワークを強化し、装置メーカーや半導体メーカーへの拡販を進め、シェアの獲得を図ってまいります。また、パワエレ技術のさらなる強化と、顧客ニーズに合わせた新製品開発により、製品の市場競争力を向上させてまいります。



【ROE改善活動の推進】

資金・資本の有効活用による、成長・機能強化投資の原資獲得、及びその原資を活用しての一層の企業価値向上/株主還元拡大の実現

従来の収益向上活動に加え、「資本コストを意識した経営」、「PBR1倍以上や資本コストを上回るROEの実現」を強く意識した施策をあわせ、企業価値、株主還元の向上拡大に取り組んでまいります。



【経営数値目標】

項 目 (億円)	中期経営計画第Ⅲ期	
	2025年度 (最新予想)	2028年度 (計画)
売上高	280	380
コンデンサ	183	272
電力機器	97	108
営業利益	18	31
営業利益率	6.4%	8%
当期純利益	11	22
当期純利益率	3.9%	6%
ROE	4.6%	8%

●事業ポートフォリオ戦略と事業ごとの競争力向上策を中心に、収益性/資産効率面の課題を克服し、企業価値を高める。

●株主資本コストは、現状7~8%という認識のもと、これを上回る価値を創出するための第一歩として2028年度にROE8%の達成を目指す。

詳しい資料は
公式HPに掲載しています。



より安全で働きやすく、BCPにも強い職場環境へ 本社生産棟の建替えを推進

シヅキは、兵庫県西宮市にある本社生産棟の建替えを決定いたしました。老朽化が進んでいた建物のリニューアルに留まらず、「BCP対策と防災機能の強化による安全で安定した生産活動の実現」、「従業員が働きやすい快適な職場環境の実現」、「省エネの推進と再エネの導入、緑化の推進によるカーボンニュートラルの実現」をコンセプトに、さまざまな面から職場環境の向上を図ってまいります。解体・新設に伴う工事は生産活動を優先して行うため、建替え中の生産への影響はありません。



解体・新築工事	2025年度～2028年度
工事完了時期	2028年度予定

詳細が決まりましたら、シヅキ公式ホームページでお知らせします。

コンデンサの生産体制強化へ 秋田指月 第五工場 竣工

2025年4月9日(水)、秋田指月株式会社(秋田県雄勝郡羽後町)で建設を進めていた新工場の竣工式を執り行いました。第五工場の新設は、指月電機グループの中期経営計画の一環にあたり、今後さらなる需要の増加が見込まれるコンデンサの生産体制強化を目的としています。シヅキはこれからも、高品質なコンデンサの安定的な供給に努めてまいります。



延床面積	4,815㎡	構造	鉄骨造、平屋
主な建物用途	産業機器、xEV、パワエレ用フィルムコンデンサの製造		
操業開始時期	2025年に設備導入から立上準備を行い、2026年以降、順次、量産対応を行う予定。		

第73回 電設工業展 JECA FAIR 2025 電力機器システムを提案



Q-PACなどの主力製品を印象づけるため「Qから始まる新たな答え」をコンセプトに



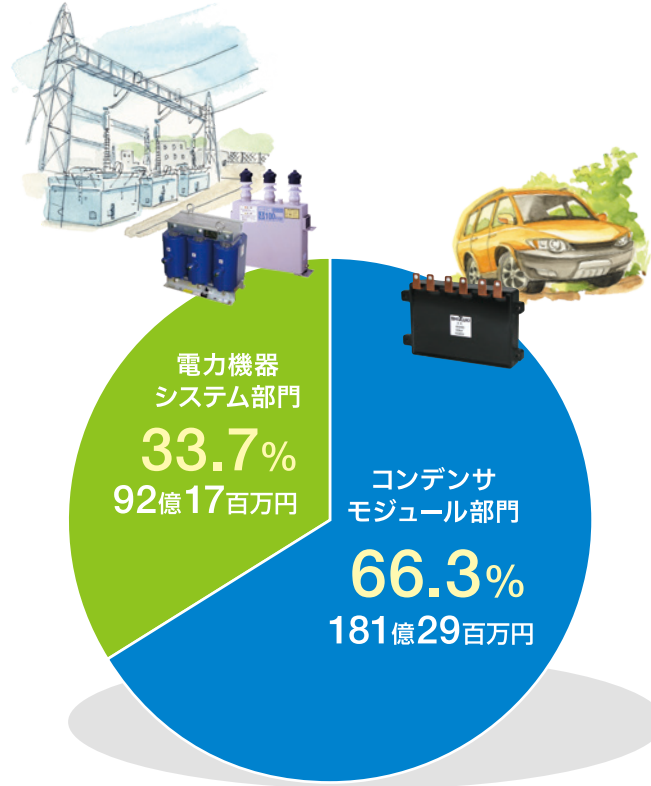
多くの方々にご参加いただいたミニ勉強会「5分でわかる!高調波抑制対策」

今年の電設工業展では、「ニーズの多様化、市場変化に対応した製品のご提案」をテーマに、2024年度業績が好調だった電力機器システムの製品を出展。高圧進相コンデンサ設備、高圧進相コンデンサ・直列リアクトル、瞬時電圧低下補償装置などを活用した課題解決をご提案しました。ブース内では、ホームページや営業活動の中でお問い合わせが多い「高調波抑制対策」についてのミニ勉強会を開催するなど、お客さまの課題解決に役立つ情報を発信し、一層のPR強化に努めました。

電設工業展 特設ページ公開中 ▶▶▶



2024年度通期の業績概要

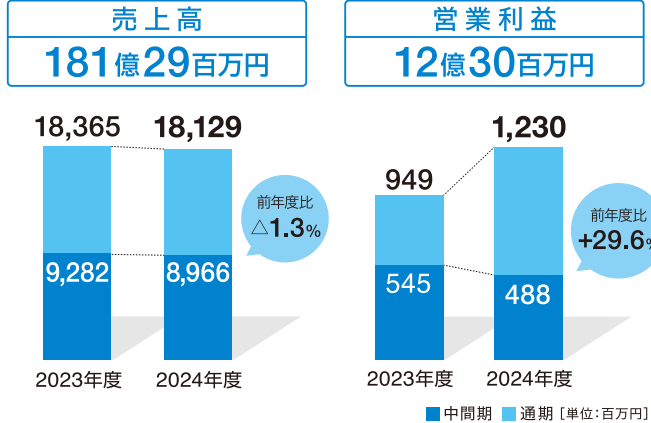


連結売上高
273億46百万円

※セグメント別の営業利益については、調整額△1,892百万円があります。
(セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用)

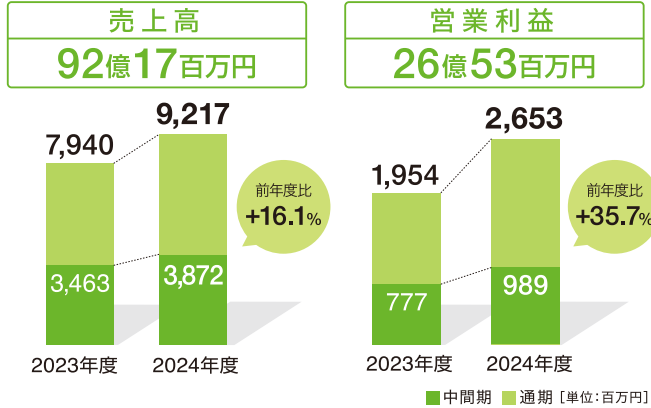
コンデンサ・モジュール部門

産業機器用コンデンサはパワエレ市場を中心に好調に推移したものの、xEV用コンデンサは当社採用品モデルのピークアウト、次モデルの立上げ遅れ等による影響により、前年度比で減収となりました。結果、売上高は18,129百万円(前年度比1.3%減)となりました。

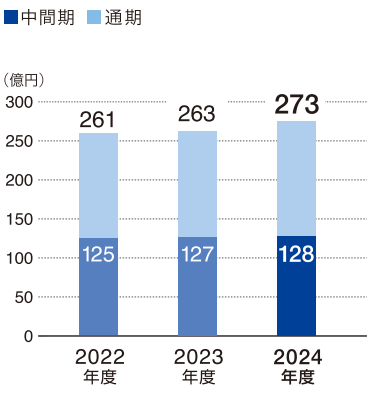


電力機器システム部門

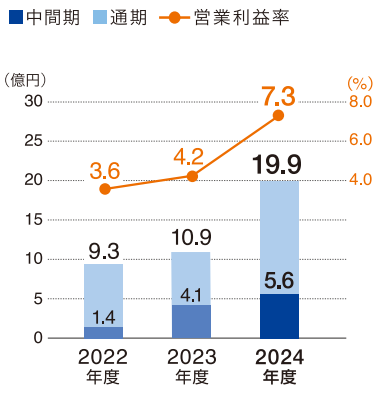
力率改善用機器に関しては、国内における需要の増加を受けて好調に推移いたしました。結果、売上高は9,217百万円(前年度比16.1%増)となりました。



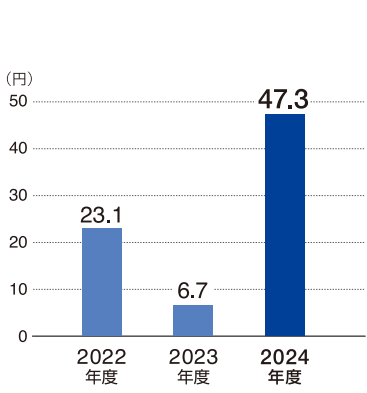
売上高



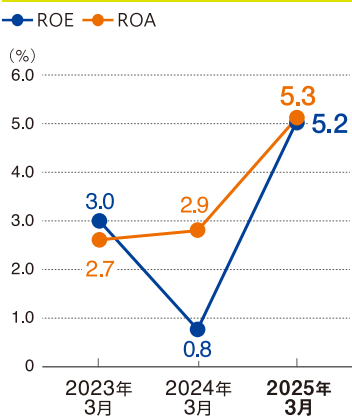
営業利益・営業利益率



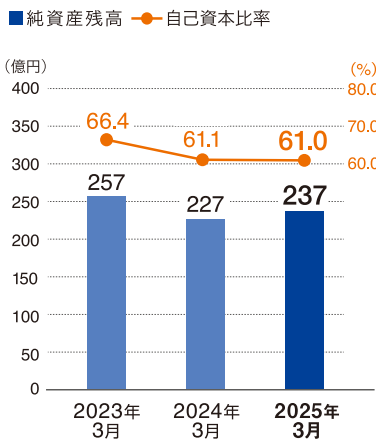
1株当たり利益 (EPS)



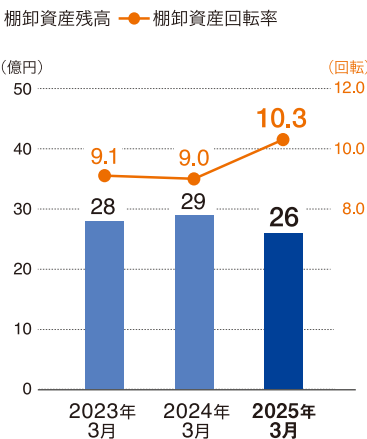
自己資本当期純利益率 (ROE)
総資産営業利益率 (ROA)



純資産残高・自己資本比率



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



売上高は、xEV用コンデンサが減少したものの、電力機器システムの需要増に加えて、産業機器用コンデンサの伸長等があり、前年度及び業績予想値を共に上回り、4期連続で過去最高を更新。営業利益は、生産性改善の効果に加え、サプライチェーンにおける価格適正化への対応、円安効果が奏功し増益。当期純利益は、前年に発生した一時費用の収束等により大幅増益となりました。

連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科 目	第96期 通期 2024年3月31日現在	第97期 通期 2025年3月31日現在
資産の部		
流動資産	19,179	20,112
現金及び預金	4,531	5,929
売上債権	11,374	11,007
棚卸資産	2,927	2,667
其他資産	346	508
有形固定資産	13,087	14,183
無形固定資産	414	338
投資その他の資産	3,797	3,709
資産合計	36,479	38,344
負債の部		
流動負債	5,247	6,882
固定負債	8,459	7,715
負債合計	13,707	14,597
純資産の部		
株主資本	18,925	19,931
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	4,276	4,301
利益剰余金	13,269	14,249
自己株式	△ 3,621	△ 3,621
その他の包括利益累計額	3,363	3,452
非支配株主持分	483	363
純資産合計	22,772	23,747
負債純資産合計	36,479	38,344

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科 目	第96期 通期 2023年4月 1日から 2024年3月31日まで	第97期 通期 2024年4月 1日から 2025年3月31日まで
売上高	26,305	27,346
売上原価	20,382	20,313
売上総利益	5,923	7,033
販売費及び一般管理費	4,825	5,042
営業利益	1,098	1,990
営業外収益	562	513
営業外費用	540	707
経常利益	1,120	1,797
特別利益	10	－
特別損失	164	－
税金等調整前当期純利益	967	1,797
法人税、住民税及び事業税	777	600
法人税等調整額	△ 36	△ 42
当期純利益	226	1,239
非支配株主に帰属する当期純利益	44	44
親会社株主に帰属する当期純利益	182	1,194

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科 目	第96期 通期 2023年4月 1日から 2024年3月31日まで	第97期 通期 2024年4月 1日から 2025年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 271	3,563
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,086	△ 2,573
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,547	305
現金及び現金同等物に係る換算差額	90	102
現金及び現金同等物の増減額	△ 4,814	1,398
現金及び現金同等物の期首残高	9,346	4,531
現金及び現金同等物の期末残高	4,531	5,929

STOCK INFORMATION		CORPORATE PROFILE		メッセージ	特 集	トピックス	セグメント情報	財務ハイライト	連結財務諸表	株式・会社概要
株式の状況		会社概要		2025年 3月31日現在						
株式の状況		会社概要		役員						
発行可能株式総数		商 号		取締役						
発行済株式総数		英文名称		取締役会会長						
株 主 数		本社所在地		取締役						
所有者別株式数分布状況		ホームページ		取締役						
大株主（上位10名）		創業年月日		取締役						
株主名		設立年月日		取締役						
持株数(千株)		資本金		取締役						
持株比率(%)		グループ人員数		取締役						
三菱電機株式会社		主要取扱業務		取締役						
株式会社村田製作所		営業拠点		取締役						
株式会社りそな銀行		東京支社		取締役						
指月協友持株会		東京支店／関西支店／中部支店		取締役						
株式会社みなと銀行		仙台営業所／日立営業所		取締役						
指月電機製作所自社株投資会		広島営業所／福岡営業所		取締役						
清原 達郎		生産子会社		取締役						
東京海上日動火災保険株式会社		社 名		取締役						
株式会社三菱UFJ銀行		資 本 金		取締役						
株式会社ノザワ		出資比率(%)		取締役						
(注)持株比率は、自己株式(7,805,591株)を控除して計算しております。		株 価 の 推 移 (円)		取締役						
証券会社 1.23%		800		取締役						
金融機関 9.25%		680		取締役						
自己名義 23.61%		560		取締役						
外国法人 0.78%		440		取締役						
その他法人 38.79%		320		取締役						
個人・その他 26.34%		2021年4月		取締役						
2022年4月		2023年4月		取締役						
2024年4月		2025年3月		取締役						
1株当たりの配当実績(単位:円)		11円		取締役						
●期末配当金 1株当たり11円		●支払対象者 2025年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者		取締役						
●支払開始日 2025年6月9日		●支払開始日 2025年6月9日		取締役						
9.0		14.0		取締役						
5.0		11.0		取締役						
8.5		3.0		取締役						
5.5		3.0		取締役						
3.0		3.0		取締役						
2022		2023		取締役						
2024 (年度)		2024 (年度)		取締役						
●期末配当		●期末配当		取締役						
●中間配当		●中間配当		取締役						
関係会社		関係会社		取締役						
株式会社 村田指月FCソリューションズ		株式会社 村田指月FCソリューションズ		取締役						
資 本 金		資 本 金		取締役						
100,000千円		100,000千円		取締役						
出資比率(%)		出資比率(%)		取締役						
35.0		35.0		取締役						
生産・販売子会社		生産・販売子会社		取締役						
社 名		社 名		取締役						
資 本 金		資 本 金		取締役						
出資比率(%)		出資比率(%)		取締役						
アメリカンシツキ株式会社(米国 ネブラスカ州)		アメリカンシツキ株式会社(米国 ネブラスカ州)		取締役						
17,600千米ドル		17,600千米ドル		取締役						
100.0		100.0		取締役						
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)		タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)		取締役						
33,000千パーツ		33,000千パーツ		取締役						
80.0		80.0		取締役						
指月獅子起(上海)貿易有限公司		指月獅子起(上海)貿易有限公司		取締役						
250千米ドル		250千米ドル		取締役						
100.0		100.0		取締役						
* は執行役を兼任 ※は社外取締役		* は執行役を兼任 ※は社外取締役		取締役						
執行役		執行役		取締役						
代表執行役社長		代表執行役社長		取締役						
足 達 信 章		足 達 信 章		取締役						
専務執行役		専務執行役		取締役						
大 槻 正 教		大 槻 正 教		取締役						
常務執行役		常務執行役		取締役						
稲 垣 裕 一		稲 垣 裕 一		取締役						
執行役		執行役		取締役						
小 田 敦		小 田 敦		取締役						
執行役		執行役		取締役						
牧 添 浩 明		牧 添 浩 明		取締役						
執行役		執行役		取締役						
三 野 克 也		三 野 克 也		取締役						
執行役		執行役		取締役						
野 上 栄 一		野 上 栄 一		取締役						